

# ここネット通信

日本子ども・子育てネットは  
日本の子どもが遊びながら豊かに育つことのできる社会の実現と  
日本の文化と命をつないでいく子育てを支えていく活動をしています。



## 新年のご挨拶



謹んで新年のお祝いを申し上げます

日本子ども・子育てネット会員の皆様にはご家族お揃いで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素から日本子ども・子育てネットの活動に対し、ご支援、ご協力を賜りまして深く感謝申し上げます。

さて、昨年は12月3日～4日の2日間にわたり埼玉県川越市で開催されました第9回全国研究大会には、全国各地から400名ほどの参加があり盛大に開催することができました。これも偏に、役員の方をはじめ地元実行委員の皆様方の絶大なるお力添えのお陰でございます。皆様方のお力添えに対しまして心から深く御礼申し上げます。

埼玉大会では閉幕にあたり、①「保育や子育て支援をサービスと叫ばない」、②「子育て支援センターや保育所・こども園が子育てのキーステーションになる」、③「保育の専門的価値のさらなる向上」の三つを大会宣言として採択しました。中でも保育や子育て支援を「サービス」と叫ばないことは極めて重要であり、これからの日本子ども・子育てネット活動の大きな柱として、我々保育・教育関係者はもちろんのこと、行政や保護者、地域社会に対しても強く訴えかけて行きたいものです。また、大会閉会後の特別先行試写会、「あの日のオルガン」に大変感動させられました。先人たちの地道な頑張りや努力があって、現在があることを改めて思い知らされました。埼玉研究大会に参加された全員の皆様にも観ていただきたい映画でありました。

ところで、子育て支援全国研究大会も回を重ね、今年はいよいよ10回となる節目の大会を迎えます。既に役員会で今年の11月28日～29日に山梨県甲府市での開催が決定しています。大会テーマとしては、子育て支援センターをはじめ、保育所・幼稚園などの支援施設や関係機関等との連携・協力する基盤づくりとして、「プラットホーム」が取り上げられるようです。これは埼玉大会宣言の「キーステーション」に繋がるものだと思います。なお、詳細な内容については、これから実行委員の皆様や地元山梨県の先生方を中心に策定されることになっています。どうぞ、会員の皆様には早目に日程を押さえていただきまして、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、本年が会員の皆様にとり幸多い一年になりますように心からご祈念申し上げます。まして新年のご挨拶といたします。

平成31年元旦

日本子ども・子育て支援センター連絡協議会

会長 木本宗雄

# 各地の便り (県名の五十音順に掲載)

## 熊本県

「平成31年を迎えて」

熊本子育てネット(熊本県地域子育て支援センター事業連絡協議会)会長 小岱紫明

昨年に引続き、本年度も 1カウンセリング研修 講師 杉田峰康先生(福岡県立大学名誉教授・元日本交流分析学会理事長) 2スキルアップ研修 講師 山田真理子先生(子どもと保育研究所・ぷろほ所長) 3子育てコーディネーター養成講座 講師 吉田道雄先生(熊本大学教育学部名誉教授)。以上の三つの研修を中心に、会員の資質向上を目指して実施していく予定です。これらの研修はキャリアアップの研修も兼ねております。熊本県との交渉など、事務上の手続きなど煩雑さがありますが、運営委員の方々の献身的な努力により行なわれています。

また、昨年からのキャリアアップ研修の影響もあり、当会への新規加盟園も増えており、新規加盟園に対応した研修も検討しているところです。

なお、本協議会が創立20周年を迎えており、平成31年度事業として、現在、記念事業(記念講演・事業報告書作成)を企画しているところです。

## 埼玉県

「子どもたちの未来のために」

埼玉ここネット会長 剣持浩

12月に埼玉県で第9回子ども・子育て支援全国研究大会を開催し、皆様のお力で実り多い大会となりました。皆様に埼玉ここネットを代表して心から感謝申し上げます。

新しい年を迎え、子ども子育て支援センター連絡協議会が子育て支援の中心的な役割を果たすことがますます大きくなってきました。子どもたちを取り巻く社会的環境は益々厳しさを増しています。子育ては親子の関係の問題ではなく、社会的、経済的、地域的環境が大きな影響を与えており、このままでは日本の将来さえ危ぶまれるのではなかと危惧します。

天皇陛下が12月にお言葉を述べられました。戦後70年、戦争の惨禍に巻き込まれることなく平和な時代を過ごせたことへの感謝の言葉を聞いて、この言葉の持つ意味を改めてかみしめなければならないと思います。

年頭に当たり、子育てに関係する方々が、オリンピックや万国博覧会などに目を奪われ、私たちの目の前の子どもたちに寄り添うことが損なわれることがないよう祈念します。日本の将来を担う子どもたちのために！

## 千葉県

新年を迎え、おめでとうございます。

千葉県子育て支援担当者会議 事務局長 川副孝夫

一滴の雫

一呼吸の間

一筋の光

朝お茶を用意し、急須から、落ちる最後の一滴の雫に、宇宙を、いや私と同じいのちをみます。

次に呼吸は、無意識にしています。呼吸をしなくなる時がいずれの日か来ます。その時までこの世で生かされているのは、何らかの使命があるからです。

その使命は、それこそ呼吸の間にあり、間一髪決断し行動できるよう祈り、育んでいます。

毎年三が日に日の出を拝みに行き、地平線から太陽が昇ってくる光の変化の中に、いのちの息吹がみなぎってくるのを感じます。

この感覚を味わっている時の平安は、まさにこの事実と響き合うところに神の愛を受けているとしみじみ感じます。

この世に存在するものすべてが、それぞれ「使命」をもって、生きています。

お互いが、お互いに大事な存在として、この世に送られてきた「唯一無二」の存在です。

乳幼児期こそ、多様性が尊重され、畏敬の念でみられる存在です。大人は、その乳幼児の環境を整える「使命」を有しています。

今年は、更に「日々是好日」そして「平安」を目指していきませんか。

## 富山県

### 「平成30年度の活動について」

富山県子育て支援センター連絡協議会 会長 柳溪暁秀

平成30年度の富山県子育て支援センター連絡協議会の活動について、中間報告させていただきます。

#### 事業目的

今日、保育・子育て支援を取り巻く状況が大きく変化する中、平成27年4月1日より新たな制度が施行されました。すべての家庭を対象に地域のニーズに応じた多様な子育て支援の取り組みが求められています。「子どもの最善の利益」を十分に保障されるためにも自ら研鑽し、その専門性を地域社会に発信していく必要があります。全ての家庭を対象に地域のニーズに応じた多様な子育て支援を充実させ、県内及び全国の支援センター間の連絡を行い、富山県の子育て支援の発展と資質向上を図りながら、事業の円滑な運営を推進していきます。

組織 会員施設 74箇所(県内全市町村:15) 役員数 19名

会議 役員会 ① 4月12日(金) 富山国際会議場

役員会 ② 1月10日(木) 富山国際会議場

研修 総会 6月19日(火) 富山国際会議場

活動紹介 ①光陽もなみ子育て支援センター(富山市)

②南砺市9カ所子育て支援センター(南砺市)

講演 「親と子の育ちを支える子育て支援の課題」 神戸大学名誉教授 広木 克行 氏

実技研修 10月2日(金) 富山流通会館

「毎日使える乳児遊び」 乳幼児教育研究所 内田 順子 氏

職員研修 2月20日(水) 富山県民共生センター(サンフォルテ)

(仮題)「現場で活かす！ 0・1・2歳児の未来を育む“3つのT”」

花園第二保育園 園長 高木 早智子 氏

協力 9月15日(土) 上市町 北アルプス文化センター

みんなで育てる「とやまっ子 みらいフェスタ」2018

12月3日(月)～4日(火) 埼玉県川越市

第9回子ども・子育て支援全国研究大会 2018in 埼玉

『第9回子ども・子育て支援全国研究大会 2018in 埼玉』において「2018 埼玉宣言」の大会テーマ「伝承」～子どもへ手渡ししたい未来～については、「子育て支援・保護者支援」及び「子どもの育ち・子ども支援」のさらなる充実の必要性を感じました。又、映画「あの日のオルガン」での園児たちの命を守り抜いた保母たちにも深く感銘しました。

そして、これからも全ての子どもの健やかな育ちを実現するために、地域に開かれた子育て支援と地域の関係機関との連携を図り続けなければならないと考えます。

終わりに、『第9回子ども・子育て支援全国研究大会 2018in 埼玉』の開催にご尽力されました埼玉県の方々に感謝申し上げますと共に、2019年11月に山梨県甲府市で開催されます『第10回子ども・子育て支援全国研究大会 2019in 山梨』のご盛会を願っています。

合掌

## 宮崎県

### 「平成30年度宮崎県子育て支援連絡協議会の活動について」

宮崎県子育て支援連絡協議会 会長 木本宗雄

宮崎県子育て支援連絡協議会では、平成30年6月29日に総会と研修会を開催しました。午前中に行政説明と前年度の事業報告・決算、今年度の計画・予算を審議し、午後は「こどもたちの笑顔をつなぐために」の演題で宮崎県立延岡城山支援学校の安井安希子に先生講演をお願いしました。また、埼玉県川越市で開催されました全国研究大会には宮崎県から13名の参加がありました。参加された皆さんからは大変素晴らしい研究大会であったとの感想をいただいています。

これからの活動としては、恒例となっている「子育て支援従事者セミナー」を平成31年2月4日に宮崎市で別添の要綱により開催する予定です。会員でなくても他県からでも自由に参加できますので、皆様のご参加をお待ちしています。

## 山口県

### 「山口県子育て支援センター連絡会の活動」

山口県子育て支援センター連絡会会長 中川浩一

今年度、埼玉県川越で開催された第9回全国研究大会が大成功で終り、昨年度の山口大会で受けた襷が埼玉県へそして来年の山梨県へと繋がっていく大会の様子を見て、本当の意味で山口大会が終わったなあと安堵しています。

さて、山口県には、「山口県子育て支援センター連絡会」という組織が平成9年からスタートし20年が経ちました。この間、子育て支援センター同士の情報交換会と総会、さらに研修会を毎年重ねてきました。連絡会として3年前から「子育て支援員研修」の中の『子育て支援拠点事業コース』の研修の内、6講座中2講座を担当しています。受講者は、子育て支援拠点で既に働いている方やこれから働きたいと思っている方が今年も約100名受講しました。

また今年度から山口県の取り組みとして各市町にある子育て世代包括支援センターの身近な窓口として、子育て支援拠点がそのランチとなって妊産婦及び乳幼児の保護者へ切れ目のない支援のお手伝いをしていくことになりました。名付けて山口版ネウボラ『まちかどネウボラ』です。私たちは、これまで子どもの

発達や子ども支援、保護者支援などの研修を重ね、子育て支援の質を向上させてきました。ただ「母子保健」の視点や知識はあまり学ぶ機会はありませんでした。その意味からも山口版ネウボラをスタートするにあたって県が主催で「母子保健」に特化した研修を拠点の担当者や職員を対象に開催、その研修会に参加した拠点には、市町を通じて山口県知事から「まちかどネウボラ」の認定を受けるという流れです。

この取り組みが始まったこともあり、今年度の連絡会としての研修会は、午前中に県の保健師さんから何故「まちかどネウボラ」なのかのお話と、午後から助産師の内田美智子先生に来ていただいた研修会を行いました。大変好評で山口版ネウボラの推進、定着に向けて拍車がかかったと実感しました。

この山口版ネウボラの取り組みが全県に広がり、私たちと各市町の保健師さんと顔が見える関係性を築きながら地域におられる妊産婦さんや乳幼児をもつお母さんへの「気づき」「寄り添い」「つなぐ」支援になれるよう頑張っていきたいと思います。

## 山梨県 「第10回子ども子育て支援全国研究大会は、山梨で開催！」

山梨県保育協議会 廣瀬集一

新年おめでとうございます。

2019年/平成31年は、平成最後の年となりますが、新元号となり新たな年の出発でもあります。この記念すべき年に、第10回子ども子育て支援全国研究大会 in やまなしを開催させていただくこととなりました。

第1回子ども子育て支援全国研究大会から昨年12月の第9回埼玉大会に、山梨からも継続して参加させていただき、「子育て支援」に特化したこれらの大会がいかにも有意義な企画になっているのか、大いに感激して感じてきたところです。毎回職員からは大変ハードでしたが有意義な研修会に参加できたことに、園内研修を通して少し興奮気味での報告がありました。これまでの大会を企画された各都県市の皆様のご苦労には、心より感謝申し上げます。

山梨県大会では、子どもたちの未来に向かって「(仮)連携からはじまる、子育てプラットフォームづくり」をテーマに開催準備を進め、実行委員会として組織づくりを進めています。保育所、幼稚園、認定こども園、子育てNPO、栄養士会、療育/児童養護関係者などの皆様と共に開催したいと思います。予定は、11月28,29日 甲府市内のホテルで開催します。

今年の開催地となる山梨県では、全国トップレベルの子育て支援政策を打ち出し2年連続で全国知事会から施策第1位表彰を受け、さらなる子育て支援の充実を目指しています。28年度から子育て関係者が集め「県保育課題等検討委員会」を立ち上げ、就職フェアと見学ツアーを実施し、かつ新制度の課題に行政と現場と養成学校が一体となって対応できる仕組みを作り上げています。

更にキャリアアップの認定研修を山梨県保育協議会に事業委託とし、平成29年度11月から新規に認定研修を実施しています。今後に向かって研修体系を山梨県と保育所、認定こども園、幼稚園団体と共に創り上げ、教育保育の質の向上と処遇の改善を実現していく体制が整いつつあります。

県庁所在地の甲府市では本年開府500年を迎え4月に中核市へ移行する中で子育て最優先を掲げ、公設の子育て世代包括支援センターと地域子育て支援センター16か所(民設15公設1か所)、幼児教育センター2か所(公設)、つどいの広場1か所(公設)の連絡会議が毎月開催され、甲府市の子育て支援体制の現状は全国的にも先んじた体制となっています。

山梨県保育協議会には地域子育て支援部会があり、調査研究と研修会を企画しています。また、NPO 法人フードバンクやまなしの「子どもの貧困に対する活動」に連携する中で、会員の園での実態アンケート調査及び食糧支援をさせていただいています。今後協定を結び新規に事業計画に組み込んでいく予定です。

今年第 10 回大会となる山梨県へ、是非おいでください。

## 「新年に寄せて」

# 役員寄稿

日本子ども・子育て支援センター連絡協議会監事 國重俊亮

昨年の12月に第9回全国大会埼玉大会に出席し、「あの日のオルガン」という映画を観ました。すばらしい映画でしたので原作も読みました。

新年にあたり、保育士人材の確保についてとりあげてみたいと思います。

平成 23 年度保育士実態調査(日本保育協会)によると、保育士を職業に選んだのは

第 1 位 子どもが好きだったから

第 2 位 保育士になるのは子どもの時から夢であった

第 3 位 保育士はやりがいのある仕事だと思った

であります。保育士を辞職した理由に

職場内の人間関係がいやだと思った、仕事の量が多すぎて疲れを感じた、仕事に見合う報酬が保証されていないと思った、が挙げられています。「現在在職している保育士においても、8割以上の人が辞めたいと思ったことがある」との「異常」とも思える事態でした。

つぎに、平成 25 年度保育所運営の実態とあり方に関する調査研究(日本保育協会)から

「過去3年間に勤務していた保育士が辞めた理由(複数回答)は多種多様である。一番多いのが結婚(32.1%)や出産・育児の理由である。その次には違う職種を希望している(26.3%)が多い、そして又多いのが家庭の都合(配偶者の転勤や介護等)25.0%である。そして仕事に自信が持てない(19.9%)、又職場の人間関係(16.2%)が挙げられている。それらの中で注目されているのが、給料への不満(4.3%)と労働時間等働き方への不満(3.0%)というのが案外少なかった。」という状況。

そこで、次に個人の上昇という野坂 勉大正大学名誉教授の文章を引用します。

「保育士が保育専門職としての地位を確立するためには、専門職としての要件たるオートノミー＝自律性を獲得しなければならない。すなわち、職業的自立と社会的使命を担う資質の涵養と向上の責任を、自らに課す事が求められる。そこでは、保育実務の水準維持と能力向上に止まらない、保育専門職が依って立つ科学知識と技術技能の研究開発能力を高めなければならない。保育士の社会的支持基盤たる専門職能団体と共に、学会に基礎をおく学術支援機構といった、組織的 研究活動に関与し、成長する事が、保育士の保育専門職としての要件である。」と。

保育所を取り巻く環境はさておき、個人の問題としては急いで社会的地位の向上と給料の増額を達成するため、保育の質の向上、専門性の向上が叫ばれています。このことを私も否定するものではありません。当然、資質向上に努めるべきものと存じます。

ただ、しかし、私がもうひとつ加えたいのが、「偉大なる平凡」ということであります。子どもたちに「ただ」寄り添う、そしてあたりまえのことを教え、行動することの偉大さ。子どもに、あたりまえの人間のあたりまえのふれあいをおしえ、人間とはいいものだと、乳幼児に、人間とは信ずべきものであり、自分がこの世界にいていい

のだと「安心」を教えること。これが平凡だがありがたいのです。赤ちゃんが生まれて、0歳、1歳、2歳の乳幼児には(そして年長にいたるまで)保育士さんという、まっとうな大人と出会い、しっかりと抱きしめ、人間のよさを骨の髄までしみとおらせる役目、これが保母さんではないでしょうか。家でたとえ、仮に、虐待めいたことがあったとしても、月曜日から金曜日まで週のうち5日間は保育士さんに抱かれて、しあわせな時間を過ごすこと。

まっとうな大人の保育士さんとともに過ごせる幸せ、これは大へんな救いとなります。大多数の平凡な保育士による当たり前の保育が大多数の普通の子どもをまっとうな子どもにするのであります。これは病気を治すことと同じくらい尊いことなのである。なにも重い心臓病の子どものケアすることだけが偉大なわけではなく、ごく平凡な保育による大多数のこどもたちを普通に育てる役目も同じく大事なものです。

目立たないが、確実に人間を人間にする途のその最中にある。それが保母さんだと思うのです。

そのため、保育士に望むことは、人間を愛し、うまずたゆまず乳幼児の幸せを目指して、健康な身体と健全な精神をもち、けしてゆるがぬ保育士たること。個人的に地位向上も大事だが、そもそも子どもの福祉を目指したのでしょ。

大多数の当たり前の保育士が大部分の当たり前の子どもを育ててゆく。

その大事さそのものにこそ、地位を授けるべきだと思います。この大多数のあたりまえの保育士の処遇を上げるのは国、地方自治体の責務である。そうしないでおいて人材不足を叫んでもそれは日本の国、自治体の自業自得というものである。

保育士という呼び名もいっそ保母に戻したいぐらいですが、偉大なる平凡のどこが悪いといたいのであります。

喜怒哀楽をたっぷりと伝え、スキンシップをして、人間とはいいものだという人間の人生の基礎固めをする職業。

そのままで十分に尊いのだといたいのです。どうか健康に留意し、子ども・子育て支援に進まれることを祈念して新年のあいさつとしたいと存じます。

## ★ 第9回子育て支援全国研究大会 2018 のオフィシャル報告書

2月にここネットのホームページにアップする予定です。  
必要な方は下記よりダウンロードしてご利用ください。

日本子ども・子育てネット

<http://kokonet.org>

# 開催予告

## ★ 子育て支援センター実践交流セミナー

※詳細については同封の開催要項をご覧ください。

## ★ 平成30年度子育て支援従事者セミナー

講演「児童虐待防止について考える」  
講師 子ども虐待防止みやざきの会 代表 甲斐 英幸 氏

講演「足指を伸ばすひろのば体操と全身・噛み合わせの関係、口腔育成の話」  
講師： 山下歯科・矯正歯科 院長 山下 剛史 氏

講演「歯科医師が教える0歳から始める口腔育成講座」  
講師： 生田歯科医院 副院長 藤原 康生 氏

主催 宮崎県子育て支援連絡協議会  
共催 一般社団法人 宮崎県保育連盟連合会

日時 平成31年2月4日(月) 10時00分～16時00分  
会場 宮崎県福祉総合センター 人材研修館3階 中研修室

参加費 宮崎県子育て支援連絡協議会加盟の会員は無料です。  
宮崎県保育連盟連合会加盟の会員、その他の方は1,000円です。

参加申込 平成31年1月25日(金) 締切  
(お問い合わせ先) 宮崎県保育連盟連合会 事務局  
〒880-0007 宮崎市原町2番22号 宮崎県福祉総合センター内  
FAX: 0985-28-5989 • E-mail: office@m-hoiku.or.jp

## ★ 第10回子ども・子育て支援全国研究大会 於：山梨県甲府市

テーマ (仮)「連携からはじまる、子育てプラットフォームづくり」

主催 日本子ども・子育て支援センター連絡協議会(日本子ども・子育てネット)

主管 山梨県実行委員会(保育協議会、山梨県私立幼稚園連盟、認定こども園設置者連絡会、子育てNPO、県児童福祉栄養士会、療育/児童養護関係者、森のようちえん、その他)

日程 2019年11月28日(木)・29日(金)の2日間

会場 甲府富士屋ホテル(甲府記念日ホテルに改名予定) 山梨県甲府市湯村温泉

参加費(予定) 14,000円(会員) 15,000円(非会員)

※ 正式な開催要項は7月中に発送を予定しています。もうしばらくお待ちください。

### 日本子ども・子育てネット(日本子ども・子育て支援センター連絡協議会)

〒861-0123 熊本県熊本市北区植木町有泉 829

TEL 096-272-0673(山東こども園・(担当)主幹保育教諭 三原 )

096-272-0699(支援センター・え〜とこ)

FAX 096-273-3322

【メール】 info@kokonet.org

【ホームページ】 <http://kokonet.org>